

医者も知らない、平穏死



連載④

グループホームから「Aさんが転倒した」という連絡があり、急いで往診しました。

80代のAさんは、足を触りながら「痛い、痛い」と泣いています。恐らく打撲だと思いましたが、家族の希望もあり、念のためレントゲンを撮ることにしました。

当院までは車で移動。車を降りた後、Aさんはヨチヨチと歩けたので、骨折はないだ

大腿骨頸部骨折だけど歩いている

ろうと思つていました。主治医のところへ、レントゲンの結果は、大腿骨頸部骨折に從いました。

大腿骨頸部骨折を起した。

こしているけど、歩ける。2週間ほどAさんは痛みで歩けません。Aさんを過去にも何人か見たことがあります。

とはいえ、大腿骨骨折を放置しておく、痛みのために歩けず寝たきりになる可能性が、本当に不思議です。

して手術するかどうか。もしかしたら、また転倒するかもしれない。

Aさんの家族は悩みました。認知症を発症しているAさんは、入院すれば骨折は治る。でも、仕方がありません。転倒しないよう行動を束縛する。Aさんは、入院して、本末転倒です。すれは骨折は治らね。大事なものは、転倒しても慌てず、冷静寝たきりになるに对应することです。

可能性が高いか。もし、皆さんのお母さんと同じよう。同じ結果を招くか？

「同じ結果を招くか？」。そのことも、普段から手術はしない方から考えておくべきではないかと。いいんとちゃようか」となりま



長尾クリニ日本尊厳死協
会副理事長。著書に『平
穏死』10の条件」など。

(写真はイメージ)